

ASA  
大田中央

ASA  
東大井

Presents

2007.10月

# 歩く目的

ASAスタッフは町歩きの人達でもある。  
朝日新聞販売店発ご近所散歩ミニコミ

No.6  
(毎月25日発行)

# 上り下り勝手にそれ

- ①ウサギマークが目印 創業時の35年前はコンビニの“はしり”だったと店主。生活用品から食品まで揃う、白田坂のなんでも屋さん。 コニーマート大田区南馬込3-8
- ②白田坂のお地藏さん 坂を見守るお地藏さんには、お供えのお花やお菓子が絶えない。
- ③白田坂から少し離れると 駐車場の一角にはエノコロ草(ねこじゃらし)が群生。ちゃんとネコが4匹遊んでいた。

「坂のある風景は、ふしぎに浪漫的で、のすたるぢやの感じをあたへるものだ。」作家萩原朔太郎が白田坂を題材に作った詩の一節。かつて多くの文化人が暮らし、馬込文士村と呼ばれた界隈にあるこの坂を、上り下りし歩いてみる。

④丘のある大倉山公園 かつては山王の山と海が一度に望める景勝の地だったとか。今は形さまざまな住宅の屋根が眼下に広がる。

⑤遊具にも土地柄 坂の地形を生かして作った吊り輪の遊具。「SMAPの慎吾ちゃんの真似〜」と、飲料水のCMを真似て果敢に吊り輪渡りに挑戦する女の子がいた。(平張児童公園)

⑥右近坂 白田坂から伸びる坂のひとつ。江戸末期に出来た坂といわれ、名前の由来は白田坂の右近くから谷中に降りる坂道だからとか、近くに右近という女性が住んでいたとか、うこん色の着物を着た娘がよく通ったから等さまざま。坂ひとつにも歴史あり。

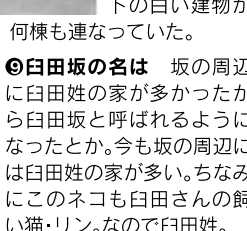


⑦コンクリートの壁、せまる！ 右近坂の脇道に、高さ3mはありそうなコンクリート壁。両側から切り立った壁がせまってくるようだ。



⑧壁の上には… 都営馬込アパートの白い建物が何棟も連なっていた。

⑨白田坂の名は 坂の周辺に白田姓の家が多かったから白田坂と呼ばれるようになったとか。今も坂の周辺には白田姓の家が多い。ちなみにこのネコも白田さんの飼い猫・リン。なので白田姓。



# 白田坂漫遊



## 街角で歴史発見！

### 伝説の名馬を伝える磨墨塚

元暦元年(1184)に宇治川の合戦で武名をあげた梶原景季の愛馬で、名馬として知られた磨墨の碑。その謂われは日本中に残るが、この塚の付近で落命したとも、この辺りで生まれたとも伝えられる。馬込の地名はこの馬に由来するとの説も。





10

⑩石段を上ると 白田坂から脇道にそれると、現れた石段。上りきると、高台の通りに出た。「ここからは平和島の花火大会も見えるのよ」と、通りがかりの方が教えてくれた。

⑪白田坂の半ばでは 大きな実をいくつもぶらさげたブタンが通り過ぎてゆくバスを見送る。



11



12

⑫木陰の下で 住宅街のあるお宅で見つけた仏像。微笑みを浮かべ、なんとも安らかな表情。

⑬こんな標識よく見かけます 白田坂の周辺には幾つもの坂が現れ、黄色の標識が傾斜を示す。かつて九十九(つくも)谷と呼ばれたほど坂の多い馬込ならではの。



13

川端龍子(1885~1966)  
洋画家として出発したがその後日本画家に転向。池上本門寺本堂の天井画なども手がけた。



16

⑮日本で最初の個人美術館 白田坂のふもとにある美術館。近代日本画家の川端龍子が私財を投じ、自らが設計。名前にちなみ、建物には「龍」にまつわる趣向がいくつも凝らされている。館全体は空から見るとタツノオトシゴの形になっている。  
大田区立龍子記念館 9時~16時半(入館は16時まで) 入館料大人200円 月休

⑯龍子の自宅とアトリエ 館の向かいには、川端龍子の住まいとアトリエが、ほぼ往時の姿のまま保存されている。記念館同様、龍子自らの設計で、和の中に少し洋を織り混ぜた独特の建築。石畳、扉、縁側などで龍のウロコがモチーフになっていた。

⑰龍子記念館に入ると 入口で迎えてくれる龍子像。記念館は昭和38年に龍子の喜寿の記念に設立された。

大田区立龍子公園(自宅とアトリエ)  
案内: 11時/13時/15時 月休  
※希望の方は、龍子記念館受付まで

15



⑱「のんちゃん」のお店 白田坂で一際賑わう八百屋さん、「のんちゃんのお店」。店の名前は店主、白田ひろのぶさんの愛称から。「幼い頃から呼ばれて育ったから古くから住んでいる人はみんな知っているよ」と、顔の広い地元ツツ子だ。

18



⑲坂のふもとのお蕎麦屋さん 半世紀以上続くお蕎麦屋さん。「この坂で昔から続くお店はすいぶん少なくなったのよ」と、おかみさん。頼んだ鴨南蛮のつゆは懐かしいような優しい味わい。また食べたくなるこの味は、どうかいつまでも残っていてほしい！  
美宇子家そば 大田区南馬込3-4

14

見晴らし良好 住宅の屋根にも電線にも邪魔されず秋の空が広がる場所発見。坂の多い地形では、高さによって目の前の景色も随分変わる。



20

⑳坂の終わり

白田坂もここで終点。今は舗装されたなだらかな坂だが、文化人達が多く住んだ昭和初期の頃は、赤土の急坂だったそうだ。馬込文士村の中心的な通りだった面影は薄れつつある。それでもこの坂で思いがけない風景に出会うと、かつて彼らも、同じ風景を見たかもしれない…という浪漫に浸ることができる。



住宅の生け垣の緑が両側からこんもり茂っています。

すぐく幹の太い桜の大木があります。

散歩中、突然カラスが飛んできて、びっくり!

龍子が伊豆から持って帰った野草などで造った小さな草苑があります。

幼稚園の園芸場。野菜やお花を育てる畑が見えます。

※次回は、「大森駅」界限に行ってきます!

バックナンバー  
差し上げます。  
(専用バインダー付)  
ASA大田中央・ASA東大井までご連絡下さい。

創刊号「内川の終点まで歩く」  
第2号「近所で迷う」  
第3号「休日のフリマへ」  
第4号「青物横丁の鰻」  
第5号「気になる店に入ってみる」

